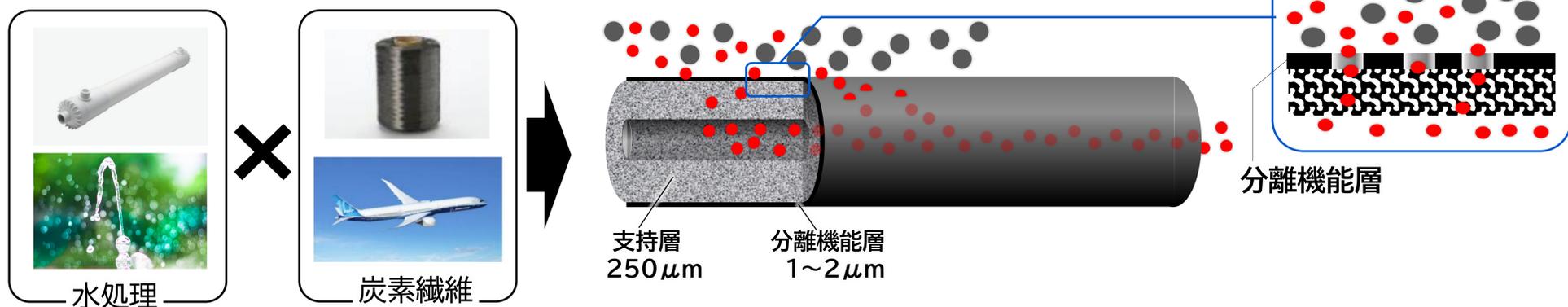


技術特徴

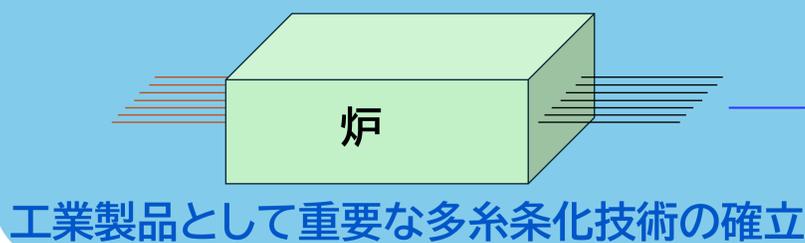
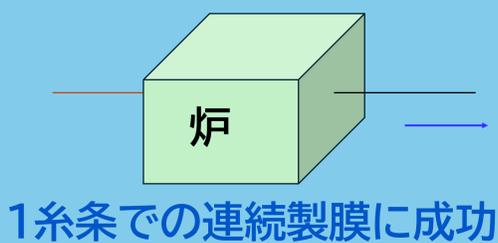


進捗と目標

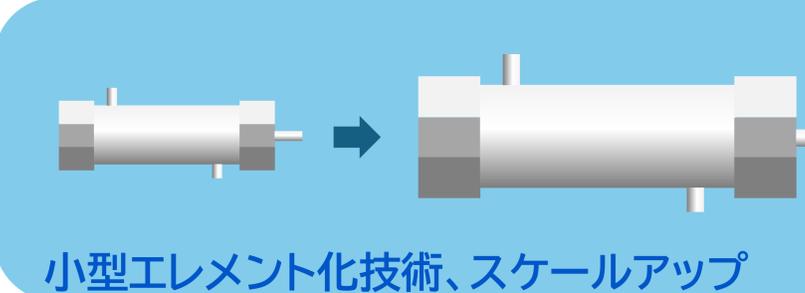
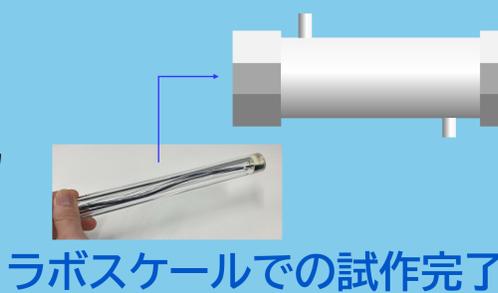
2023年度まで

2026年度(目標)

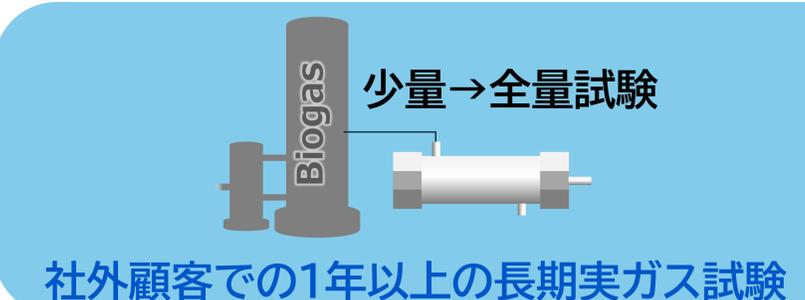
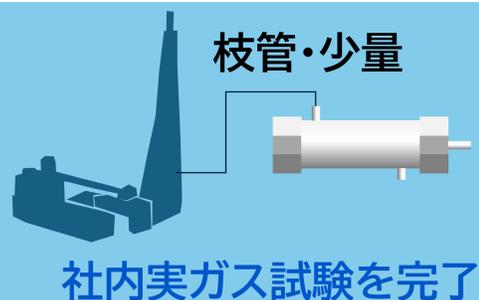
製膜



エレメント化



実証

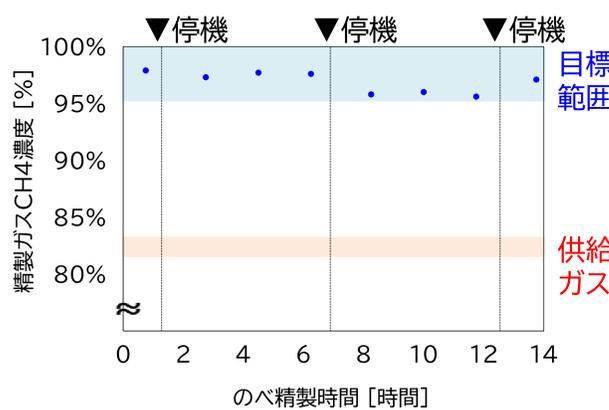


2024年度の主な成果

課題と今後の取り組み

- 供給ガス(脱硫後)
- CO<sub>2</sub> 17%
  - CH<sub>4</sub> 83%
  - H<sub>2</sub>O 飽和条件
  - 油分 約20ppm
  - 圧力 0.3 MPa-G

2024年12月実施



脱硫後の実ガスを用いた分離試験で、不純物存在下でも安定したCO<sub>2</sub>分離特性を示した  
 →顧客と長期試験実施に合意。2025年2Q中の開始を目指して準備中

- 製膜
  - ・製膜用の新規装置導入(25/4Q)
  - ・多糸条化技術の確立(26/4Q)
  - ・微小欠陥検出・修復技術(26/4Q)
- エレメント化
  - ・小型エレメント化技術(25/4Q)
  - ・エレメント内流体解析(25/3Q)
  - ・スケールアップエレメントサイズ確定(25/4Q)
  - ・スケールアップエレメント試作(26/4Q)
- 実証
  - ・顧客実ガスでの長期実証(25/2Q~26/4Q)
  - ・付着不純物による膜劣化影響明確化(26/4Q)
  - ・膜再生技術(26/4Q)
  - ・他ガス種分離による顧客メリット確認(26/4Q)

実用化・事業化の見通し

- ・製膜技術については、装置導入を着実に進めつつ、工業製品としての大量生産技術確立を目指す
- ・並行して顧客試験用の膜エレメント試作体制を整備し、本事業終了後にサンプル有償化→本格事業化
- ・耐久性の高さを活かして、様々なCO<sub>2</sub>分離・回収用途への展開を継続的に調査